

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長)

住所

〒976-0052

福島県相馬市黒木字迎畑 91-12

電話 090 (2364) 3613

メール kokubunpitsu@gmail.com

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133 (浪江)

関根憲一 090-4889-3726 (富岡)

板倉好幸 090-9534-5657 (南相馬)

山菜・キノコ・土壌など測定して原発事故の実態を暴いて13年、その一部を報告します

国や自治体が発表する値は本当？

飯舘村 伊藤延由さん

原発事故直後の3月15日飯舘村で44.7 μ Sv/hが記録されたとき、飯舘村の長泥曲田地区では300 μ Sv/hくらいだった。3月28日に当時京都大助教の今中先生が飯舘村の長泥曲田地区を測定したとき30 μ Sv/hを測定したが、当初短寿命核種が大量に存在していたためだ。しかしセシウムなど長寿命核種が複雑に残り、国が除染地区や非除染地区別に公表する線量調査は実態を全く反映していない。村の生活に特に寄与していた(村民の食費の40%は山菜、キノコなどの自然の恵みだった)山菜・キノコは何時になったら食べられるようになるのか？

13年間にわたり綿密な調査をしてきた飯舘村の伊藤伸由さんから報告をいただいた。

測って分かったこと

●初期降下(事故直後に降りそそいだ放射能)の不均一

同じ農地ですら測らないとわからない。10回

ほど耕耘(下層の土と表土を掘りかえし入れ替える)しても不均一は改善されず

●2011年5月4日の採取土壌にヨウ素I-134が見えた。

3月15日時点ではヨウ素I-131だけで30万Bq/kgと推測される。ヨウ素は甲状腺がんを発症させる核種。

●自然の循環サイクルに組み込まれたこと
腐葉土が最大の汚染源であること。2014年飯舘村の測定でコウタケのワーストNo.2は大倉行政区産(村内で一番汚染が低い地域)だった。

1. 初期降下(原発事故直後の放射能の降下)の場所ごとの不均衡

これが後々村内の汚染を測るときに、1mずれると全く違う値を示す原因。

No.1、No.2、No.3は連続した水田だが値が全く異なる。

No.4、No.5、No.6は畑内、10回ほどトラクターで耕したが、ほうれん草、ジャガイモを植えた土壌は約二倍の違いがある。

2011年の土壌

単位: Bq/kg

No	採取場所	採取日 (2011年)	I-131	Cs-134	Cs-137	Cs計	備考
1	北浦二段目土壌(田)	5月4日	242	5.020	5.170	10.190	
2	北浦三段目土壌(田)	5月4日	4.670	43.200	50.000	93.200	30万Bq/kg?
3	北浦四段目土壌(田)	5月4日	1.390	23.400	24.900	48.300	
4	野手神土壌(畑)	4月27日	2.020	7.870	9.290	17.160	
5	ほうれん草土壌	6月23日	不検出	5.510	6.780	12.290	
6	じゃが芋土壌	7月19日	不検出	11.100	14.400	25.500	
7	沼平1号田土壌(田)	9月17日	不検出	141	184	325	かけ流し
8	沼平2号田土壌(田)	9月17日	不検出	10.400	13.300	23.700	
9	沼平4号土壌(田)	10月12日	不検出	14.700	14.900	29.600	
10	目黒(田)	10月12日	不検出	4.240	4.430	8.670	
11	野手神(田)	10月12日	不検出	12.800	15.400	28.200	
12	ハウス土壌	7月19日	不検出	106	126	232	

IISORA シンポ2023

2, 原発事故がなければ汚染は10~20 Bq/kgなのに飯館村は!

飯館村は除染済でも 8,847 Bq/kg だ。No7 は柏崎刈羽原発から約30 km の地点、柏崎刈羽原発は一つの基地で世界最大発電量の原子力発電所だが、汚染は見られない。

飯館村の土壌vs非汚染地域の土壌

2023.9

No	採取場所	採取年月	セシウム量 (Bq/kg)	備考
1	瀬波海岸海砂	2021年4月	7	2023.8.31 5.6Bq/kg
2	瀬波海岸段丘		10	
3	三面川土手		25	
4	村上小学校		14	
5	新潟市東区	2023年3月	10	伊藤自宅
6	熊本市	2023年3月	9	熊本市N氏宅庭
7	新潟県上越市柿崎町	2021年4月	8	柏崎刈羽原発から約0km地点
8	新潟県刈羽村	2019年11月	22	柏崎刈羽原発構内
9	新潟県柏崎市	2020年4月	11	"
10	長野県小布施町	2022年4月	70	Cs-134が約3.0Bq/kg
11	飯館村除染済み	2022年	8.847	村内34か所の平均 村の面積の25%
12	飯館村未除染	2022年	26.776	村内21か所の平均 村の面積の75%

3, 花の測定結果

降下した核物質(ここではセシウム134、137)は自然の循環サイクルに組み込まれた。

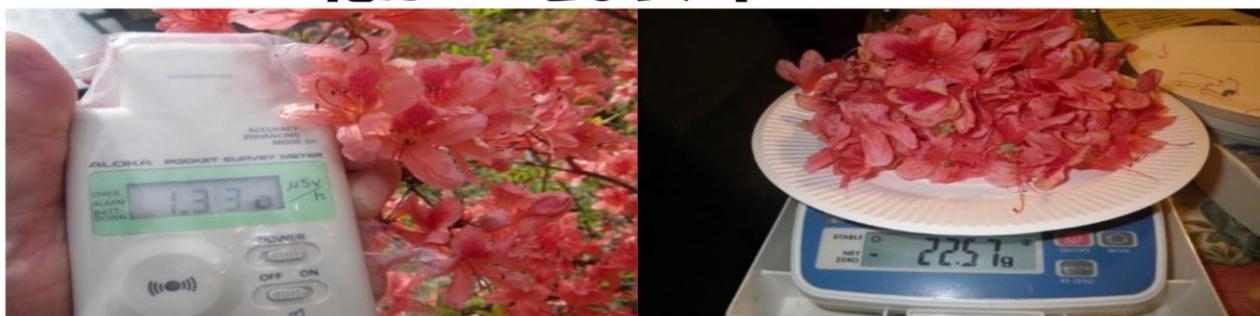
植物はセシウムを栄養素?(カリウム)と認識し吸収している。

お汚染地域の自生の植物には全てにセシウムが入っている。

2019年時点では、つつじの花にセシウムが入っていた、一つの花に0.025 Bqが入っていた。

「飯館村の緑色はセシウムの色」と発言している。

花は？ 2019年



採取場所	採取日	Cs-137	Cs-134	重量 g	測定時間 秒	空間線量率		土壌	備考
		Bq/Kg				1m	1cm		
ふあーむ裏庭	5月19日	109.1	ND	95	37.600	1.33		51.426.0	
		100枚		22.57g					
		1枚		0.2257g					
		1枚		0.025Bq					

IISORA シンポ2023

4. 茸の測定結果

茸については年ごとに違いが大きい、キノコの汚染度合が培地(土壌)濃度に比例しない。初期降下の不均衡と自然の循環サイクルに組み込まれ腐葉土層を形成したせいと思われる。キノコ自身が濃縮しているケースもあり、培地よりもキノコが高い例が見受けられる。

茸													単位: Bq/kg	
種別	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
チチタケ		76,000	500				628~ 2,162						3,664	
松茸	866	3,590	3,032	7,244	5,410 ~ 29,000	3,493 ~ 14,464	7,865	2,700 ~ 31,745	3,833~ 5,068	2,589~ 22,108		13,319		
猪鼻茸	44,300	48,800	27,940	72,100	44,460	3,820 ~ 10,873	13,628 ~ 28,370	2,880 ~ 17,338	4,197~ 35,576	10,333 ~ 17,924	13,307 ~ 34,292	9,769~ 23,843	5,556 ~ 48,056	
サクラシメジ			14,018			31,634		21,210	84,088	32,850		30,214 ~ 64,489	49,539	
千本しめじ			988					216	176~ 860	99~ 300		257~ 872	439	
アマタケ									8,762	11,900		21,792	93~ 17,876	
はたけしめじ			255							7	5		17	
村内栽培 原木椎茸	838								332					
天然椎茸			98,839											
椎茸(流通)									0~29					

IISORA シンポ2023

5. 塩出し汁を流していいものか？

塩漬けワラビを熱湯に浸け重曹や灰を添加すると実験では、99%以上の脱セシウム率、99.99%もある。細胞内のセシウムが水に流れ出る(ナトリウムのイオン交換と同じ)。しかし、抜けたセシウムは川を下り海に流れ込む。汚染水の海洋放出に反対している者として、排水の基準値はクリアしているが、流して良いものか悩んでいます。

「ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト」からの報告 (3)

2022年から2023年にかけて、帰還困難区域の中で特定復興再生拠点に指定されていた地域が除染「完了」ということで、次々と避難指示解除されました。私たちはその後を追う形で測定活動を行いました。

□双葉郡富岡町 2023年4月1日避難指示解除

富岡町では、夜の森地区及び大菅地区の一部が避難指示解除になりました。夜ノ森の名所・桜並木のあるあたりということになります。測定は2023年5月と6月、49ポイントで測定しています。

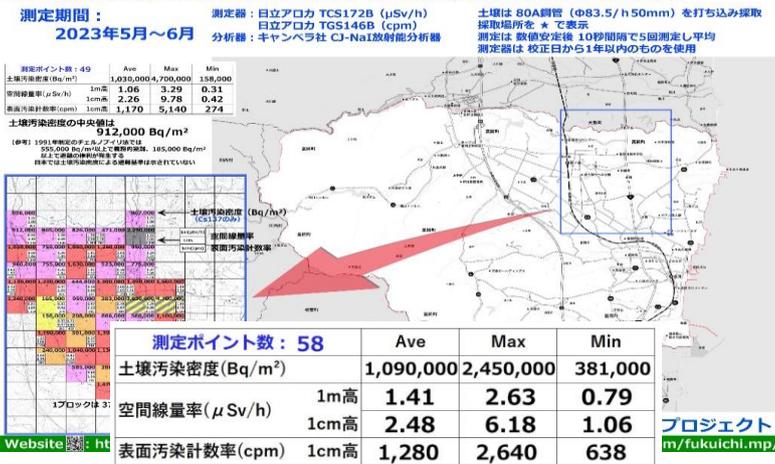
測定ポイント数：49		Ave	Max	Min
土壌汚染密度(Bq/m ²)		1,100,000	4,700,000	158,000
空間線量率(μSv/h)	1m高	1.06	3.29	0.31
	1cm高	2.41	9.78	0.42
表面汚染計数率(cpm)	1cm高	1,170	5,140	274

土壌汚染密度の中央値は、912,000 Bq/m²でした。

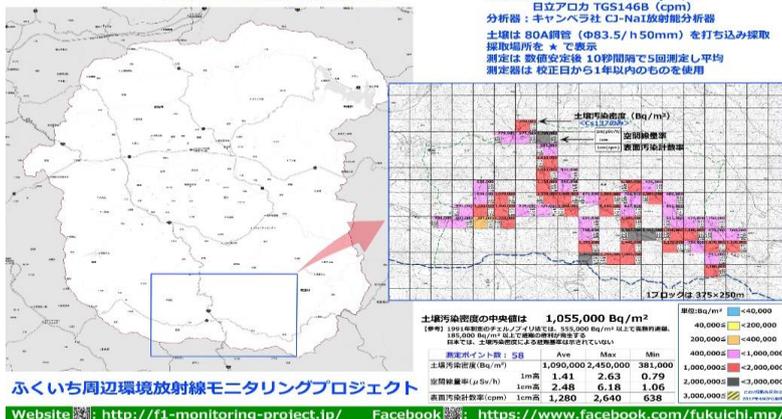
□相馬郡飯館村 2023年5月1日避難指示解除

飯館村では帰還困難区域として残っていた長泥行政区の避難指示が解除されましたが、他の町村と異なり特定復興再生拠点区域以外の部分も含めて解除になっています。復興再生拠点以外の部分は除染せずに解除しているので立ち入りは可能ですが、居住制限が掛かっています。2020年10月に退任した菅野典雄・前村長が、復興再生拠点以外の部分も含めて長泥行政区の一括解除を国に強く要望したという経緯があります。測定は2023年7月に行い、58ポイントでした。

福島県双葉郡 富岡町2023年避難指示解除地域 土壌マップ



福島県相馬郡飯館村 長泥行政区 土壌マップ 測定期間：2023年7月10～12日 ＜2023年5月1日避難指示解除＞



土壌汚染密度の中央値は、1,055,000 Bq/m²でした。

「ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト」

共同代表・中村順記